

第2回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会 会議録

日 時	令和2年1月27日(月) 10:00～11:35
場 所	大田市立北三瓶小・中学校(多目的ホール)
出席者	<p>委員：17名/22名 (欠席委員：吉川 靖氏、秋森健太氏、三島修司氏、渡利章香氏、近藤健一氏)</p> <p>事務局：船木教育長、川島教育部長 森本総務課長、錦織総務課長補佐 和田学校教育課長、霊山社会教育課長 布野子育て支援課長、藤原まちづくり定住課長</p>
傍聴人	20名(男性14名、女性6名)
次 第	別紙のとおり
概 要	以下のとおり
附 記	本委員会は原則公開
<p>●学校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察場所：大田市立北三瓶小・中学校 ・所要時間：20分(9:30～9:50) <p>1. 開会(進行：森本課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の半数以上の出席(5名欠席)を確認後、本委員会の成立を報告 (検討委員会設置要綱第6条第2項により) <p>2. 協議(議長：岸本委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 <p>私、この学校を初めて訪問させていただいた。現場を見ることは大切であると、改めて、思っている。前回(基本方針)の時も、大森の先の方まで学校を見に行った。大田三中とかも、外から見させてもらった。この学校を見ての第一印象は、非常に立派な建物であるということであった。ここで、子どもたちの学びが来ていることを羨ましく思ったところである。今日は、色々な問題提起があるだろうが、会議へのご協力をお願いしたい。</p>	
<p>【協議事項】</p> <p>◎学校のあり方に関する実施計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)委員の皆様からの質問について (2)委員の皆様からの意見について <p>⇒事務局(森本総務課長)より資料No.1及び資料No.2に沿って説明</p>	
協議事項に係る質疑応答	
発言者	内 容
大國委員	<p>北三瓶での開催であるので、地元についての質問をさせてもらいたい。北三瓶と志学(の学校)は、施設一体型義務教育学校ということであるが、このことについて、はっきりと分からない。小中一貫校のような形を想像するが、この違いをきちんと教えていただきたい。</p> <p>それから、特認校は「市内に在住する児童・生徒が希望すれば入学できる」と書いてあるが、実際に、人数の制限や希望動機などの理由が、学校やこれから作られるコニュ</p>

	<p>ニティの意見が反映されるのか。</p> <p>また、山村留学について、受け入れ農家に対し、受け入れる子どもの人数のバランスを考えていただきたい。後、育てる会や山村留学センターが、子どもたちを面接とか短期留学をさせて、いい子どもたちを受け入れているので、今後も、この体制が継続して行けるのか教えていただきたい。</p>
和田課長	<p>質問の一点目、義務教育学校と小中一貫校について、小中一貫教育制度の中に、義務教育学校と小中一貫型の学校があると思う。今回、北三瓶小・中学校と志学小・中学校を義務教育学校との記述がある。その違いは、義務教育学校は、一人の校長と一つの教職員の組織となる。小中一貫型の小・中学校というのは、それぞれ（小学校と中学校）に校長と教職員の組織がある。また、（教員としての）免許状も、本来ならば、小・中学校の両方の免許状を有することとなっている。が、義務教育学校であれば、当面の間は、小学校の免許状または中学校の免許状、それぞれで、小学校の免許状の教員は前期課程、中学校の免許状の教員は後期課程、但し、中学校の国語とか理科の専門の免許の教員は、小学校の国語とか理科の授業に入れるということになっている。小中一貫型の小・中学校は、それぞれの組織となっているので、それぞれの免許状が必要となる。後、教育課程についても、義務教育学校の場合は、9年間の教育課程で、前期課程と後期課程に分けていくが、小中一貫型の小・中学校は、あくまでも、小学校6年間、中学校3年間となる。義務教育学校となった場合の方が、9年間を見通しての教育課程が組んで行けるという利点があると思う。制度上の説明は、以上である。</p>
森本課長	<p>特認校は、基本的には、希望される方はフリーで受け入れることが原則である。実際には、希望するかという形では、希望が出て来ないと思われるので、義務教育学校は、それぞれに特色を出してもらって、その特色があることによって、募集を掛けていくという形になると思う。従って、色々な制限を付けない形で進めて行きたいと思っているが、地域との協議の中で、何か要望があれば、検討した上で、対応して行きたいと思っている。</p> <p>それから、山村留学生の受け入れで、農家に対してのバランスというのは、男女比とか色々あると思う。現状でも、非常に苦勞しながら、（農家の方に対して）お願いしているところである。ここ1、2年、山村留学の希望者が増えている。更に、そのような組み合わせも考えながら、今後、対応して行ければと思っている。</p>
船木教育長	<p>特認校の関係は、なるべく制限は付けたくはないが、やはり人数的な制限とかは、建物の収容量の観点などを考えながら、ある程度の制限を掛けながら、それ以上となると、選考という形になると思う。現段階で、具体的なものはないが、ある程度の制限は掛けざるを得ないと思っている。</p>
平田委員	<p>今回、ブロックの委員として参加することにあたり、この会の情報というのが、今月10日の会議の後、報道を通して広がり、驚かれた方が沢山おられたようである。やはり、この情報というのは、反響があり過ぎても大変であるというのは分かる。ブロックの委員としては、地域で出てくれとは言われたが、資料はもっていたが、その具体的な内容を、もっと早くに地域に伝えて、話をする中で、集約して、代表として出ることができたら、良かったという思いがある。どうして、こんなに一回目の会議で、こんなに（情報が）広がるのか、また、誤解を生じるような報道もあり、その点が疑問に感じた。</p> <p>それから、私自身が、外国人に関わりのある活動をしている。「ふるさと教育」ということは、よく分かった。その大切さも感じている。一方、一番最初の資料の「世界に羽ばたく」というか「世界の未来を拓く」という記述がある。今、多文化共生の時代であ</p>

り、大田市でも多文化共生推進計画の基礎が出来て、これから公開され、話し合いをされて決まって行くことになると思う。そういう意味で、子どもたちにも、身近に保護者も外国籍の方がいて、子どもたちも外国にルーツの者がいる。そういう中で、やはり「ふるさと教育」も、勿論、柱であるけれど、そのふるさとの中に多文化の色んな人がいて、現在、大田市に400人近い外国人がいる。市民の100人に1人は外国人であるという現実がある。それから、ふるさとに帰って来たくても、企業が、仕事がなかったら、帰って来れない。子どもたちが、高校を卒業して、(大田市の)外に出ても、企業がなければ、(ふるさとに)帰って来れない。私の子どもたちの頃から、同級生とかに、(ふるさとに)帰りたいけど、仕事がないということをやよく聞いている。今、市内の色々な企業で、実習生の人たちが、日本人の足りないところを、一生懸命、企業に入って、働いている。そういうふうに、身近に外国の人たちがいる状況、そして、そういう接点を持てば、またグローバルな視点を、子どもたちが持つことができるのではないかと思う。どこかに「世界に目を向ける国際感覚、国際教育」のようなものを取り入れてもらいたい。色々な国の人と、勿論、外国人だけではなく、障がいのある人、色々な人たちと温かい心を持って、接して、受け入れながら、交流が持てる、そういう豊かな人権を育てていただきたいという思いを持っている。なので、是非、将来に向けて、国際化というか、国際的なところを検討していただきたい。

それから、三点目は、今日、(この学校を)見学させていただき、本当に素晴らしい、このような学校に入りたいというような学校である。前回から、話を聞いていて、各地域で「ふるさと教育」も、小学校の段階から頑張っているところもある。小学校は、まだ統廃合が進む訳ではないが、やはり、子どもたちにとって、確かに、沢山の人数で活動することは大切なことであるが、それだけがいいことではない。この学校のように小規模でも、丁寧に教育されていることが大事ではないかと考える。それにつけても、将来、中学校が2校という方向という形は、どうなのだろうと思う。ある程度、中規模でも、子どもたちが、丁寧に育てられる環境を、何とか検討できないものかという考えを持っている。

今回、委員になったことで、色々な所で、意見を伺うと、やはり、小さな所から(大規模な)大田一中、大田二中に入ることで、「中一ギャップ」という問題で、不登校になる問題などもある。また、些細なことではあるが、地域との繋がりということで、食育ボランティアで、子どもたちと一緒に、郷土食の箱寿司づくりをすることで第一中学校に入っている。今後、3回目で2年生のクラスに入ることになっている。昨年は、5クラスに入ったが、ボランティアも1回に10人程度は入り、半日使うことになる。そういう形を取ると、今年は4クラスであるが、ボランティアを集めるのも、とても大変なこととなる。そこから感じるのは、「ふるさと教育」で地域と繋がる中で、地域の方々、どれだけ対応できるのか、それだけの人数がいるのかと思う。それから、例えば、大森小学校は、とても頑張っておられる。今、特認校を2校挙げておられるが、今後、増やすことへの検討はしなくもないというような発言をされたような気がする。例えば、大森小学校が頑張って、第三中学校とか保育園と小中一貫校を作りたいと言われたら、それは可能であるのか。

森本課長

一点目の(住民への)周知が足りていないのではないかと質問ですが、これについては、確かに、新聞報道が先行しまして、地域の皆さんには、必要以上に不安を掛けたと認識している。実は、今後、本実施計画(案)を地域の皆さんに説明し、(地域の皆さんから)意見をいただくという機会を設定したいと考えている。2月中に日程を決めて、7ブロックに出掛けて、説明会を開催したいと思っている。また、これまでの取り組み

	<p>として、実は、今回の計画を作るために、各年度ごとに、地域の皆さんと意見交換会を開催し、「学校は、どうあるべきか」を積み重ねる中で、本計画に繋がっているということは、ご理解いただきたい。</p> <p>それから、外国人との関わりの部分については、ご意見として参考とさせていただきたい。</p>
川島部長	<p>三点目について、中学校は、最終的に2校ということで、ボランティアが学校に入っていく時に、(人数的に) 不足する状況にあるということであった。これについては、学校だけではないと思う。説明したように、学校運営協議会のような組織を、今後、しっかり作りながら、地域と家庭と学校が、一緒になって取り組んで行く。やはり、これは、学校だけではなくて、社会教育の公民館であるとか、まちづくりセンターであるとか、そのような所と、しっかり協力する中で、学校を盛り立てていくという体制が必要であると思う。また、今、特認校は2校を考えているが、今後、どうなのかということについて、小学校は、それぞれの地域で「ふるさと教育」を中心に、しっかり地域の教育を、小さい頃から積み重ねるといふ魅力を作っていただくということがある。特認校は、示されている2校なのかという質問であるが、現段階では、この2校に限定する必要はないと思っている。今後は、各地域、各学校の取り組みを見ながら、拡大すべき所は検討したいと思う。</p>
船木教育長	<p>今、特認校は、北三瓶と志学の義務教育学校で行うということ(教育委員会から) 示させてもらっている。やはり、特認校というのは、特別に認めるということであり、原則、校区内の就学である。これについては、変える考えはない。ただ、色々な理由によって、例えば、学校に行けないとかいうような理由によっては、特認校に行けることが出来るということである。現在、2校を示しているが、1校になる可能性もある。ただ、これについては、今回の実施計画(案)は、皆さんと協議をする叩き台として、教育委員会の今の考え方をお示ししただけである。ですから、私としては、小学校も中学校も、学校は全て残したいと思っている。統廃合はしたくはないと思っている。ただ、子どものことを考えた時に、「このままで良いのか」ということを、皆さんに投げ掛けている。最終的に、全ての学校を残すべきであるということ、全ての地域が、子どもを残してやりますということであれば、私は、それでいいと思っている。これ(実施計画(案))は、絶対的なものではないので、皆さん方に、色々な知恵を出していただき、今後5年、10年、子どもたちのために、どうして行くべきかということ議論しながら、その中で、具体的に「学校のあり方」を、どうすべきかということを検討していただくことにしている。</p>
高橋委員	<p>今、教育長の方から、これから議論していくんだという基本的なスタンスを聞いて、私自身、感じたことですが、その場とは、この場なのでしょうか、それとも、各地域のどの場なのでしょうか。私も、今、ブロックの代表として出ていますが、代表であっても、権限はない。あくまでも、私たちは、この場で聞いたことに対しての質問をしたり、意見を言ったりだけの場であって、本当に議論する場が、ここなのか、どこなのか、そこが、非常に曖昧であり、そこら辺りを、具体的に示していただきたいと思う。</p> <p>先程からの質問に対する回答を聞いて、初めて、そうなのかと気付くことがある。というのは、あまりにも専門用語とか、横文字とかが多い。例えば、コーディネーターと言えば、私は、学校支援地域本部事業のコーディネーターを思い浮かべていたが、これは、どうも魅力化のコーディネーターであると、今回、初めて、気付かせてもらった。ですから、その都度その都度、丁寧に質問させていただいたり、丁寧にご回答いただければ、大変有難い。とりあえず、先程の教育長の言葉に対する私の感じたことを述べさ</p>

	せていただいた。
船木教育長	<p>最終的には、地域であると思っている。第1回目の時にも話をさせていただいたが、今回、統廃合の学校の名前も出ているが、地域の協力がなければ、出来ることではないので、その地域と色々な話をする中で、子どものことを考えた時には、どうするかということ、地域と一緒に、最終的に決めて行きたいと、決めるべきであると思っている。大田市全体を見る中で、大田市の子どもとしては、どうあるべきかということ、この場で議論すべきであると思っている。個々のことであると言っても、(各ブロックの) 代表であるという辛い気持ちは分かる。その辺は、冒頭で話したとおり、2月の初めから、それぞれの地域(ブロック)に出掛けて、色んなご意見を伺い、それを取りまとめて、この会で報告させていただきながら、また、その中身を議論して行くということになると思っている。要は、各地域、地域の思いがあると思うが、やはり、この場では、大田市全体の子どもの教育、学校のあり方というものについての議論をしていただきたい。後、具体的なことになると、各地域のことが大事になるので、地域の協力、理解がないと、(この計画は)出来ないと思っている。ここでは、大田市の子どものことを考えた時に、こうあるべきだということを議論していただきたいと思っている。</p>
渡邊委員	<p>二点お願いしたい。</p> <p>一点目ですが、先程から話題になっている義務教育学校に関して北三瓶小・中学校と志学小・中学校が、既に施設一体型になっているので、ここが義務教育学校になって行くということは、自然な流れでよく分かる。ただ、逆に言うと、施設一体型でない義務教育学校が組めないのかどうかというところが一つある。例えば、第三中学校は、今のところ、議論としては、第一中学校と統合という方向に向かっている。仮に、大森小学校と第三中学校は離れてはいるが、離れていても、例えば、義務教育学校のような、そのような考え方というのは、あり得るのか。それは、基本的に難しいのか。その辺が、私には分からない。</p> <p>それから、もう一点は、施設一体型ではあるが、小中一貫的なものと義務教育学校とでは、小・中学校のカリキュラム的なことで違いがあることは理解できた。逆に言うと、カリキュラム的なことあるいは小・中学校の教職員のあり方に踏み込まないと、結局、名前は変わったけれども、中身は小中一貫型に過ぎないのではないかとということも、充分、起こり得ると思う。結局、義務教育学校の最大の特色というのは、9年間の教育をどういうふうに組み立てて行くのかということで、これまでの日本の教育のあり方というのは、6、3、3で固定化されているが、今、色んな議論が出ていて、そのような中で、小学校5年間、あるいは中学校4年間というように、実態に応じて、色々な考え方があると思う。今、地域の子どもたちにとって、小学校の部分と中学校の部分のどこが弱いのかということ、そういったところで、組み立てを考えたりすると、義務教育学校の特長が出てくると思う。そのようなところを、大田市の魅力にして行くんだというように考えて行くのであれば、特認校というのは、資料の9頁の「用語解説」にあるとおり、やはり、「市内に在住する児童・生徒が希望すれば入学できる」というように、特別ではなく、北三瓶の義務教育学校と志学の義務教育学校が、とても魅力的なことをしているので、大田市内の子どもたちが手を挙げれば行けるというような自由度がないと、結局、特別なんだということになる。ともすれば、校区外就学とどこが違うんだということに、結果的になってしまう。希望しても、そう簡単には入れないということであれば、特認校という意味合いがよく分からなくなってしまうというような気がしている。整理すると、大森小学校と第三中学校のように、学校が離れていると義務教育学校というのは成り立たないのか、場合によっては、離れていても、そういうことは考え得る選</p>

	<p>択肢になるのかどうか、そこの辺りをお聞きしたい。</p>
和田課長	<p>今、大森小学校と第三中学校の例を挙げておられるが、校舎が違う場合、同一の設置者であっても、併設型小中学校になると思う。そうすると、小・中学校それぞれに教職員組織が必要となる。さっき言われたように、義務教育学校であれば、前期課程、後期課程となっている中で、例えば、「4、3、2」とか「5、4」といった柔軟な区切りをつけることができると思うので、先程から出ている「中一ギャップ」に配慮した教育活動を組んで行けるということが柔軟にできると思う。先程のご質問にあった校舎が違う場合は、同一の設置者であれば、併設型小中学校となるので、現段階では、義務教育学校としていくことは難しいと考える。</p>
船木教育長	<p>特認校の考え方については、正に、私もそのように思う。しかし、先程も言ったが、人数的なことなどは出てくると思う。渡邊委員が言われた内容は、当然であると思う。そうしないと、(特認校としての) 特色が出て来ないので、勿論、そのようにして行きたいと思っている。</p> <p>それから、義務教育学校については、確かに、第三中学校の校区は、大森小学校と高山小学校である。要するに、その3校を小中一貫校という発想はあるかと思う。やはり、それぞれの連携が必要となって来る。今でも、第一中学校、第二中学校、第三中学校は、それぞれの校区の小学校が進学している。それぞれの小学校と中学校が連携を取りながら、義務教育の課程を行っていると思っている。そういう意味合いで、可能性としてはあると思うが、義務教育学校としては、先程も課長が説明したように、難しい面があると思う。(義務教育の) 9年間の中で、子どもたちに付けてもらいたい力を、義務教育の中で段階的に付けて行くところが、義務教育学校の魅力である、私は感じている。</p>
岸本委員長	<p>この義務教育学校は、松江市辺りでは、既にしているが、なかなか定義がどうなのか分かり難いところがある。是非、ブロックとか地域説明会の時には、今のような意見も沢山出ると思われるので、解説を丁寧にさせていただきたいと思う。</p>
松場委員	<p>前回のこの会議の後、ブロック内で混乱が起きている。ブロック内のことを話したいところであるが、大田市の教育のことについて話すとのことであつたので、質問させていただく。</p> <p>先ず、教育長が言われたが、「地域に小学校も中学校も残したい」と自分は思っているとのことであつた。今、中学校は、基本的に統合という計画を立てておられる。逆に、解体するという発想はあるのかという質問が一つある。第一中学校は、大規模校で、色んな小学校が集まって、それで問題も起きている。どの中学校も、メリット、デメリットはあると思う。前回、参加させてもらい、「大田の教育とは何だろう」と、家に帰って考えてみたところ、やはり、ヒューマンスケールというか、大田市は他の市に比べて小さいが、その小ささが逆に売りになるというか、魅力になるのではないかと思った。小さいことが美しい、小さいことが幸せだということを、どこの小学校も、中学校も大切にしていけば、いいのではないかと考えた。この(実施計画)案の3頁にある「1学級複数学級編成」、これは、都会に合わせた考え方ではないのかと、この大田市に合っているのかと考えた。なので、中学校を、敢えて、量ではなく質を上げるために解体する。その小ささが美しいということを、子どもたちに教えていけば、都会に出ても、その小ささの心地よさ、美しさを感じた子どもたちが、都会の中で苦しいと思った時に、きっと大田に、自分の町に帰って来てくれるのではないだろうか。自分自身の人生を振り返っても、そのように思う。中学校の「1学年複数学級編成」の考えと、中学校を解体するという考え、この2点に絞って、質問させていただく。</p>
船木教育長	<p>大田市の特色ということで、要するに、一つにして大きくするのではなくて、反対に</p>

	<p>小さくするというか、分割してはどうかということであるが、それについては考えている。3頁にあるが「将来的に、全ての校区について見直しを検討する」ということは、先程言ったように、第一中学校が増え過ぎて、今の5クラスが6クラスになるということではなくて、そのことについては、ある程度、考えている。考えているのは、将来的にはあるけれども。私も、確かに、余りに大規模校はどうかと思っている。ただ、小学校は既存で、中学校は複数学級でということで提案している。それについては、やはり、中学生は、ほぼ大人になる過程の時期であるので、同級生との刺激合いをするのが、この時期、一番いいのではと思っている。そういうこともあり、複数学級にするということは、学級編成をするということになるので、同じ生徒同士ではなくて、変わることでの刺激合いが必要であると思っている。3年間を通して、同じ同級生だけではなくて、色々な意味で、ある程度、クラス替えも必要ではないかということで2学級以上（複数学級）と提案させていただいている。ただ、皆さん方の意見の中で、先程も言ったように、そうではなく、(学校の規模が)小さくてもいいと、子どもたちの将来のために、高校、大学、社会に出て、世界に羽ばたくためには、小規模校でも、充分、行けるということで、まとまるならば、それはそれで、考えなければならぬと思っている。この案は、あくまでも、決めつけたものではない。皆さんが、議論する糧として、こういうふうに提案しているものである。先程の意見のように、色々な意見があると思うので、それを集約する中で、まとめて行きたいと思っている。</p> <p>ただ、私は、中学校は、やはり、子どものことを思えば、複数学級は必要であると考えている。</p>
川島部長	<p>重ねてではあるが、中学校の分解と言いますか、解体と言われた件ですが、結局、解体して、各地域に元戻しのような形はどうかというお話だったと思う。</p> <p>先程、教育長も答えたが、やはり、小学校については、この案では、各地域で、小さい頃から、言葉であったり、文化であったり、色々な人と関わりながら、その地域のいいところを、しっかりと見つめながら、自分なりの考えを持つというのが小学校段階である。中学校については、先程、平田委員から多文化の話もあったが、「世界の未来を拓く」という、これは、教育ビジョンの基本理念であるが、各地域で、文化をしっかり積み重ねた子どもたちが、寄せ集まり、色々な地域のことを語り合う。この成長過程が、中学校くらいになると、コミュニケーションなども含めて、そういう年代は必要となる。勿論、児童生徒の急激な減少という状況もあるが、そういうことから、この案を出すに当たっては、各地域での意見交換などを積み重ねながら、小規模校のメリット、デメリット、あるいは、大規模校のそれを伺いながら、最終的には、先程、言ったように、小学校は、各地域を学ぶことを積み重ね、地域の人と一緒に体験し、地域に染まって行き、また、中学校は、集まって、コミュニケーションも含めて、多文化も含めての年代になるのではということで、この案を出させていただいたということである。</p>
岸本委員長	<p>この辺りで、質問については、一旦、切らせていただき、意見の方に移らせていただきたい。</p> <p>先ず、皆さんから出していただいた意見について、事務局より説明していただきたい。その中から、本編の「4 学校再編の考え方」について、今日はここに絞って、意見交換をさせていただきたいと思っている。</p> <p>では、事務局より説明願いたい。</p>
森本課長	<p>意見の説明ということであるが、それぞれ出していただいた委員より補足説明をしていただきたいと思う。</p> <p>私の方では、(各委員からの意見を)まとめさせていただいたことを、冒頭のところで、</p>

	<p>若干説明させていただいたくらいのことである。実は、この意見の中には、先程の質問に関連したことも沢山ある。松場委員が、最後に出された「中学校の解体」についての質問に近い形で出されている意見もあるので、意見を提案いただいた各委員に、補足説明なり、意見の主旨を述べていただけたらと思う。</p>
<p>岩谷委員</p>	<p>前回の会議でいただいた資料No.1の3頁の「4 学校再編の考え方」というところについて、意見を述べたい。</p> <p>一点目、先程から出ている「特認校」について、「(1) 北三瓶小・中学校並びに志学小・中学校において……特認校に指定します」と書いてある。この幅を広く取っていただき、先程から意見が出ているように、各地域の取り組み、各小学校の取り組みによっては、特認校を拡げる可能性があるというような記述を、どこかに入れていただきたいと考えている。そうしないと、この案が出てしまうと、地域が混乱してしまうことになる。また、学校についても、その混乱の波が襲って来て、保護者が動かれたりとか色々なことが起こり得る。やはり、猶予の期限をもらいたい。この(1)のところのどこでもいいので、「特認校については、学校や地域の連携、また特色ある教育を生み出すことによって、特認校と認める」というような文を入れてもらおうと、取り組みが違って来ると思う。特に、池田小学校や、先程から出ている第三中学校区の大森小学校、高山小学校、そして第三中学校についても、全国で表彰されるような素晴らしい「ふるさと教育」の様々な取り組みをしている。それから、今、大田市で問題になっている学力の定着についても、小さい学校も、それなりの取り組みをしていて、そのような面でも、特認校として、地域ぐるみで取り組んでいる学校は沢山ある。多分、そういう一文があれば、地域も本気になって、学校も更に本気になって、取り組んで行けると思うので、そういう記述をして欲しいということの一つ、提案する。</p> <p>それから、同じ3頁であるが、「(2) ……ただし、計画期間中1学年2名以下になる期間が3年を経過した場合又は見込まれる場合は、統合を検討します」という文がある。この文が、心に突き刺さっている。もし、良ければ、この文を削っていただきたい。先程の一生懸命、頑張ろうという地域の波を削ることができないと思うので、この文を削っていただきたいということを提案したい。もし更に許されることであれば、(3)を全部、削ってもらえたら、嬉しく思う。何故かと言うと、(3)の②は残してもらいたいが、②のところは、松葉委員の回答のように、今後、更に校区が変わって行く可能性がある、保護者も子どもたちも、非常に混乱する。私も、母校である久手中学校がなくなった一人として、やはり、ふるさとの学校がなくなるということは、非常に悲しい思いを積み重ねて来ている。そういう意味でも、文面に出たり、報道で出たりすると、混乱するので、この(3)の部分の削ってもらい、②を残し、「今後、色々な意味で、学校と地域が一緒になって、学校のあり方、地域のあり方、ふるさと教育を検討して行く」というような文にならないかと思っているので、この点を提案する。</p>
<p>川島部長</p>	<p>一点目であるが、特認校の記述を拡大して欲しい。そうすることによって、どの学校も特認校になれるということを示した方がいいとの提案であったと思う。特認校とは、特別に認めて、従来の校区外に通うということである。例えば、記述を拡大すると、結局、中での取り合いになる。とにかく、ここで掲げているのは、しっかり「ふるさと学習」を、今までも、それぞれに魅力ある取り組みをしてもらっているが、更に、地域と話し合いながら、将来的に、地域で子どもをどう育てるかという磨き上げをしてもらい、魅力を高めて、そのことを発信していただき、取り組みを更に加速させていただく。これが、この実施計画(案)の骨子である。ここに示している2校以外にも、他に優る特色があり、地域と共に、しっかりやっているということになると、その学校に行きたい</p>

	<p>という子どもや親が出る可能性もある。そのようなことになれば、教育委員会としても、当然、何らかの形を考える必要があるが、今、ここで、それを記述する必要があるのかどうかということになると、私はどうかと思う。</p> <p>それから、第三中学校の統合の項目を削ることについて、学校がなくなると悲しいというのは、大人の、地域の人たちの考えであって、悲しいでは済まない話であると思っている。先程、申し上げたように、中学校も、800人が700人になり、10年後には、600人台に落ちる。これは、成り行きの姿である。そのような中で、しっかり整理をして、子どもたちのために「1学年複数学級」が必要であるということを示している。これを削ってしまうと、何もない、何も考えていないということになる。案を提示した側の者としては、そのように思う。</p>
岩谷委員	<p>例えば、(この項目を)残しておかれるにしても、今、第三中学校区で、一番、話題になっているのは、「令和4年度の統合」ということである。現在、小学校から中学校に進学する、一番、不安定な子どもたちが、中学3年生の時に統合されることに、保護者が不安がっておられ、子どもたちも不安になっている。私も、事務局側の方にいけば、そのように考えると思う。もしも、全部、削るのが難しければ、「令和4年度」という記述については、検討して欲しいと思う。</p>
船木教育長	<p>先ず、(2)の「1学年2名以下になる期間が3年を経過」という記述は、第1回目の会でも、私の気持ちを話したが、要するに、統廃合はしたくない。子どものことを考えた時には、そうせざるを得ない場合が出てくる。そうした時に、ある程度の期間を設けておかないと、多分、本気にならないと思う。いつまで経っても、このままでいいのかということになるので、このように期間を記述させてもらった。具体的に、何故、「3年か」と聞かれても、その根拠はない。私自身、この記述は外すべきではないと思っている。</p> <p>それから、中学校の「令和4年度」の記述については、最初、記載せずに提案しようと思ったが、同じように、いつするのかということになるので書かせてもらった。ただ、第二中学校とか大田西中学校が統合した時も、3年生も一斉に統合している。その不安はあるとは思いますが、(統合した)どの地域も経験していることである。今までの統合も、できるだけ影響が出ないように、準備をしながら統合している。行き成り、何も準備をせずに、統合をすることはない。ただ、ここで私が言いたいのは、今、第三中学校では、(来年度、入学の)新1年生が、将来、自分が中学3年生の時に統合するのであれば、今のうちに、第一中学校に行きたいと思っているようである。それで、いいのだろうか。それで、保護者が、そういうことにすること自体、私は不思議に思う。何故、もっと第三中学校を守ろうという気持ちにならないのかということがあがるが、そこには、色々と複雑なことがあるとは思う。この「令和4年度」も提案させていただくが、準備段階などを考慮して、先にずれるということは、充分、考えられることである。</p>
岸本委員長	<p>先程の「特認校」であるが、前回の資料の9頁に「用語解説」が出ている。ここには、簡単に書かれてあり、「希望すれば入学できる」と記述されている。元々、義務教育学校を特認校にしたということで、もう少し深い意味合いがあると思うので、この資料だけでは分かり難いところもある。ここに、もう少し意図的なもの、内容的なものが付加されれば、ある程度、何故、義務教育学校に特認校を置こうとするのかが、よく分かると思う。</p>
松場委員	<p>先程の教育長の発言について、高山小学校の保護者が、第一中学校の説明会に行ったという現状があるので言われたと思う。何故、この案が示された時に、保護者が、他の町の中学校の説明会に行くのか、疑問に思ったと言われた。それは、単純に、不安だか</p>

らである。この町で生きて行かれない、この町で生活できないと思ったので、保護者がみんな、動いたと思う。今、教育の話として話しているが、町の存続のあり方である。小学校、中学校は、(町の) 大切なインフラである。第三中学校を捨てて、第一中学校の説明会に行ったのは、不安だからであると思う。

これまでの統廃合で、その後、(その町が) どうなったのかを見て来られた方が多い中で、自分のような若い者が言うのは、何なんです、保護者に、自分の家庭だけではなく、その町がどうなりたいのかということ話し合う場が欲しい。それもないまま、この案が出されると、動揺して仕方がない。そして、他の家庭が行ったら、私も行かないといけないかもと、行きたくない人でも流されると思う。なので、教育だけではなく、町のあり方、この町がどうなりたいのか、ありたいのかということ話す場を、各まちづくりセンターごとに、それこそ小さな規模で、行って欲しいと思う。高山ブロックで、意見交換会を開催するという案内もいただいているが、高山小学校は、水上町、祖式町、大代町で出来ているので、各町ごとに意見が違うと思う。特に、第三中学校の話が挙がってから、町ごとに混乱している状態なので、各まちづくりセンターごとに、意見交換会をして欲しいと思う。

後、意見として、中学校の「1学年複数学級」の質問で、先程、教育長から回答していただいたが、同級生の刺激が、発達段階的に中学生には必要であるということと、多文化、多様性を学ぶべきであるという話で、中学校は複数学級を提案しているという説明があった。都会から1ターンで来た友達が教えてくれたことであるが、大田市の良さとか、島根の良さというのは、教育の中だけで多文化とか刺激がある訳ではなく、社会が同級生の代わりに刺激をくれる、同級生だけが刺激をくれる文化で育った都会の子どもたちは、やはり、愛着心が薄いと思う。だからこそ、先程言った、小さいからこそ美しいという大田市の教育を貫いていただきたいという提案をした。海士町でも、そうであるが、都会から来た子どもたちが、やはり、ここは違うと感じる一番のところは、(都会では) 教育の中の先生とか、教育に関わる人だけが、子どもたちと関わる人であったが、都会と違って、教育(の分野)に関わらない人たちも、子どもたちのことに関わってくれる。先生ではない人が、自分を支えてくれるというスケール、小さなコミュニティーを感じる事が出来るから、温かみとか地域愛とかが育っていくのを、日々、子どもたちを見ていて感じる。だから、同級生の刺激とか多文化、多様化ということ、子どもたちに教えるために、複数学級にするという説明は、少し違うと思う。それこそ、私たちが、学校ではなくて、地域で教えて行くべきではないのかと、日々、子どもたちを見て感じているところである。

船木教育長

地域の不安が、何らかの形であると思う。ただ、何らかの形として出さないと、いつまで経っても、問題提起ができない。(この案のように) 問題提起をさせていただき、色々な議論になると思っている。先程から言っているように、この案が決定ということではない。このようなことがあるということで、地域の方で議論していただき、また、地域が活性化して行けばいいと思っている。

それから、若干、気になったことは、(各まちづくりセンターごとに) 話す場を持って欲しいと言われたが、ある地域では、既に、地域で、学校の子どもたちを含めて、自主的に話し合いをされている。行政側が行うのではなくて、地域が危機感を持って、こういうことをきっかけとして、色々話をして行く。地域の方で声を挙げて、話し合いをしていくというのが、本来の姿であると、私は思っている。

松場委員

(地域の方で、話し合いを) 進めて行ってもいいということであるか。

船木教育長

こちらが、いいとか、駄目とか言うことではない。進めるべきであると思う。

森本課長	<p>今日は、お配りした資料の極一部の意見の発表であった。まだまだ、たくさんのご意見をいただいている。今後の会議の中では、残りの意見も含めて、それぞれの委員からのご意見、また、それに対しての意見、回答という形で協議が進められれば、いいと思っている。</p> <p>当面、資料No.1として、まとめさせていただいたものをベースに、次回も、順次、進めて行きたいと考えている。</p>
大西委員	<p>何度も何度も、第三中学校の統合の話を聞いていて、出来れば、残して欲しいとは思う。具体的に、今後、どういう生徒数になって行くのか。今、二つの小学校から進学するので、ある程度の見通しは立つと思う。令和4年度に向けて、どのように、児童生徒数が減って行くのか。そのような具体的な数字を、資料として提示していただくと、検討し易いのではないかと。</p>
岸本委員長	<p>この会は、基本方針からの継続である。基本方針の検討委員会の時には、詳細な資料が、かなり提示されていた。その資料を配られたらどうか。</p>
森本課長	<p>この実施計画検討委員会は、大部分の委員が、基本方針検討委員会からの継続である。その基本方針検討委員会の資料編には、児童生徒数などの見込みも含めて、一定の資料を整理している。具体的に言えば、資料編の8頁に、今後の学校別の児童生徒数の推移が載っている。中学校の部分については、12頁のところ、10年間での変化を示している。この資料については、新委員にもお送りしているので、ご確認願いたい。</p>
渡邊委員	<p>要望を二点お願いしたい。</p> <p>一点目は、前回も今回も、委員の方々は、言いたいことが沢山あると思うが、時間切れというような感じになっている。皆さん、忙しいとは思いますが、後30分くらいは、会議をされてもいいのではないかとこの気持ちを持った。</p> <p>それから、二点目として、(この会の)構成メンバーであるが、第三中学校の問題が大きな議題になっているが、中学校を代表する方が委員の中にいないのは、少し置き去り感があると思う。</p> <p>この二点について、ご検討願いたい。</p>
岸本委員長	<p>(事務局は)この要望について、検討していただきたい。</p> <p>これで、本日の協議は終了としたい。</p>
<p>【その他】(進行：森本課長)</p> <p>●次回、第3回目の日程について、確認させていただく。</p> <p>事務局としては、2月18日(火)の午後とさせていただきたい。</p> <p>先程の時間延長のご提案を考慮させていただき、開始時間と開催場所が決まり次第、改めて、案内させてもらう。</p> <p>※今後のブロック別の地域説明・意見交換会に係る日程表を配付。</p>	

以上をもって、第2回検討委員会を終了した。